



④ 可愛いミニサイズのコーヒーの木。艶のある葉はインテリアとしても人気です。観葉植物の中でも寒さに弱いタイプなので、なるべく暖かなお部屋で管理してあげましょう。



⑤ 品種が豊富で色々な個性を楽しむペペロミアの中でも、珍しい葉色の「キト」。赤〜黄色にニュアンスカラーがアンティークな雰囲気を出します。



⑥ ペペロミア「ブラジリア」は夜の黒みがかつた葉色と葉の鮮やかな赤のコントラストが何ともかっこいい品種です。ペペロミアは小型のものばかりなのでお部屋にも飾りやすいですよ。

観葉植物のある暮らし

～知っておきたい冬のケア～



⑦ ライムカラーの葉に涼し気な切れ込みが爽やかなブテリス「フォーレイ」。日陰に強いシダ植物の1種なので日の当たりづらいお部屋にもオススメ。水やりや葉水は細目に行いましょう。



⑧ 鮮やかなグリーンにミルク色のような斑入り模様が美しいシンゴニウム。日陰にも強いですが、斑入り植物は日光が不足するとせっかくの模様がぼやけてしまうので、なるべく明るいお部屋に飾りましょう。



⑨ 初心者さんオススメのサンスベリアは慣性的な品種も多くインテリアとしても要注目。とにかくお水は控えめに！冬場5℃を下回るようなお部屋なら水やりをストップして休眠させましょう。



⑩ 人気のフィカスの中でも比較的耐陰性・耐寒性の強いカシワバガモの木（フィカス「リラータ」）は慣性的な波打った葉がユニーク。他のフィカスよりも比較的成長がゆっくりなのも特徴です。

① 温度管理
観葉植物はほとんどが暖かい地域の出身です。寒さが苦手。日中なら日当たり良く過ごしやすい窓辺も、夜間は窓から冷たい外気が伝わり冷え込んでしまいます。また冬場のリビングなどでは暖房をつける機会も多いので、夜間暖房を切った後に窓から冷気が伝わって、その寒差が更なる植物のダメージに繋がります。冬場は夜間だけでも部屋の真ん中などに移動して、なるべく暖かくしてあげましょう。窓際でも移動が難しい場合には窓に断熱の工夫を施してください。

また、この時期は絶対に観葉植物を外に出してはいけません。「水やり後の水が切れるまで」「天気の良いから少し日光浴」などといって、たとえ一時間でもいきなり外の寒い空気に当ててしまうと、急な温度差で植物がびくつきりして葉を落としてしまうことがあります。人間と同じように、植物も急激な環境や温度の変化には弱いものなのです。

② 水やり
植物の水やりは「土が乾いたらたっぷり」とが基本です。ですが冬の時期はほとんど成長せず根の活動も鈍くなるので、水を吸う速さも遅くなります。水やりのペースを決めている方はその頻度を減らしてください。ただし土が乾くスピードは常に一定ではないので、土の表面を触って乾きを確認するのが理想的。冬場は乾いたと感じてから3日程待つて水やりをしましょう。

また冬場に関しては水やりの頻度だけでなく、タイミングも重要です。夕方以降の気温が落ちていく時間帯や、霜や雪が降るような冷え込む日は絶対に水やりをしないでください。土の中に残った水分が冷え込むことで、根のダメージを与えてしまいます。水やりは土がしっかりと乾いてから、なるべく晴れた暖かい日の日中に行いましょう。

③ 葉水
観葉植物が暮らしていた地域は湿度だけでなく湿度も年中保たれているので、空気の乾燥を嫌います。暖房器具で部屋を暖めること自体は問題ないのですが、室内の空気が乾燥気味になり、乾いた風が当たると葉が傷んだり、乾燥により虫が付きやすくなることもあります。土への水やりとは別に、植物の葉にも霧吹きなどでこまめに水分を与えてあげてください。この葉水は可能であれば毎日でも行ってあげてOKです。ただし冷え込む夜間は避けて日中に行いましょう。

④ 風通し
意外と見落としがちなポイントが風通しです。本来は暖かい地域で年中外の自然な風に晒され育っていた植物なので、自然の風に当ててあげる事でより健康に育ちます。風通しが悪いと害虫やカビが発生したり、病気になるやすくなってしまう。冬場は寒くて億劫になりますが、1日最低10分間でも窓を開けて空気の入れ替えをしてあげましょう。空気が特に溜まりやすい場所ではサーキュレーターなどを使って空気を動かしてあげるのも効果的です。

⑤ 植え替え・剪定作業
「なんとなく元気がないかも、そろそろ根が詰まって来たかな？」と植え替えを検討される方もいらっしゃると思いますが、この時期は触らないでください。植え替えの作業はどうしても根に触れるので、少なからずダメージを与えてしまいます。暖かい成長期ならすぐに回復できますが、冬は根が伸びる時期ではないのでそのまま待つてしまう可能性もあります。また鉢を大きくすると、土が増える事により水やりの後に土の中に残る水分が増えるので、根のジメジメが続き根腐れを起こしやすくなります。冬場はとにかくそっとしておく事が大切。剪定作業についても、冬の間は新しい芽が吹いてくる可能性がかなり低いので、傷んだ葉や本当に邪魔な枝を整理する程度においてください。植え替えや思い切った剪定は活動が活発になる5月以降に行いましょう。

⑥ 肥料
基本的に冬は成長しないので、肥料を必要としません。一日中暖かく冬場でも新芽が見られるようなお部屋なら与えても効果が目立ちますが、余分に与えすぎてしまうと肥料焼けを起こし植物の成長を阻害してしまうこともあります。冬に多少肥料を与えたからといって容量を守れば肥料焼けを起こす可能性はほとんどありませんが、そっとしておいた方が確実です。肥料を与えるのは春暖かくなつてから、植物の成長が始まる時期に合わせて与えるのが効果的です。

寒さが苦手な観葉植物達と一緒に冬を乗り切れば、これからはもっと上手に付き合っていけるはず。フィカス・ウンベラータなど、寒さに特に弱い観葉植物では対策をしても葉が黄色くなったり落ちてしまうことはどうしてもあります。ただし植物自体は丈夫な性質なので、根が生きてさえいれば春暖かくなるとまた元気に葉を芽吹かせてくれます。葉が全部落ちてしまったような場合は水やりを止めて、春まで休眠させてあげてください。

空気だけでなく景色も寒いこの季節は、お部屋に観葉植物を迎えてお家中で癒しの時間を過ごすにはいかがでしょうか？お宅に合う植物や育てる上でのお悩み・疑問など、観葉売場スタッフにお気軽にご相談ください。



⑪ インドアグリーンの定番ポトスの中でも緑葉の美しさが際立つ「パーフェクトグリーン」。葉が伸びてきたら切り戻しを行うことでボリュームのある姿に育ちます。